

厳しい現状での診療姿勢

病院長 柿澤 卓

先生方と本院を結ぶより良い病診連携を目的に発刊してきました「水道橋畔発」は、今号で記念すべき第10号の発行に漕ぎつきました。これも偏に、大切な患者様を数多くご紹介下さる先生方の、ご支援の賜と心より感謝しております。

さて、最近の世界規模の経済・社会情勢の悪化と歯科界の低迷はすさまじいものがありますが、それに連動して歯科医師国家試験合格率の低下や大幅な入学定員割れ等、歯科大学が抱える問題は大きく、本院も容易ならざる状態です。幸い本学の国試合格率はトップクラスを保ち、今年度は入学定員割れも免れましたが、決して油断できる状況ではございません。そこで数年後に計画される大学の水道橋回帰も念頭に置き、病診連携を軸に先生方と強いスクラムを組んでいかなければならないと思っております。そしてこのような時こそ、われわれは歯科医師としての矜持を持って、日々の診療に当たることが肝要と思い、水道橋病院はそのバックボーンになりたいと常に心掛けております。

そのような中、本年度は口腔インプラント科の充実を計画しております。インプラント治療は、ご開業の先生方と競合する点も多くあるかと思います。しかし本院では、歯科病院でしかできないインプラント治療に力を注ごうとしております。すなわち、鎮静あるいは全麻下による埋入手術、入院ケア、外科的付随処置の必要な症例など集学的治療を推進するとともに、トラブルシューティング面も視野に入れていきたいと考えておりますので、ご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

なお本院は、先生方からは紹介して良かった病院、患者様からは紹介されて良かった病院を目指しておりますので、お気付きの点等がございましたら、是非ご助言を賜りたいと存じます。

第8回 水道橋病院症例報告会 開催

口腔インプラント科 関根秀志

日頃より様々にお世話になっております先生方を、感謝をこめてお招きする水道橋病院症例報告会が、平成21年5月14日に開催されました。このたびで8回目となりますこの会は、近隣の先生方のみならず、毎年ご参加くださるリピーターの先生も少なくなく、次第に間に定着してきております。

当日は、勉強熱心な先生方およそ150名のご参加をいただき、開始時間には血協記念ホールがほぼ埋め尽くされる盛況ぶりとなりました。

このたびは「知っててよかった」をテーマとし、日々の臨床において役に立つ内容、比較的高頻度に突発的に遭遇する難症例への対応などを、多方面から解説するミニレクチャー6演題を中心に、学会などで発表したポスター8演題や、協賛をいただいております業者さんのうち7社の展示ブースの出展があり、会場の周辺は所せましといった状況となりました。折しも、同窓の先生方には久しぶりに出会われた先生方が旧交を温めていらっしゃる光景もここで見かけられました。

病院長からの御礼のご挨拶に引き続き、「知っててよかったレクチャー」と命名されました一般口演のトップバッターは小児歯科の久保講師、「小児外傷への緊急対応・傾向と対策」と題され、乳歯あるいは永久歯の破折、脱臼への対応を、長期経過症例と国内外の専門学会から提示されたガイドラインを交えて解説する内容でした。

第二口演は眼科のピッセン教授より、最近、先進医療に認定されました「多焦点眼内レンズの臨床応用」が報告されました。医科領域は専門外となるオーディエンスに対して、技術的な解説や適応症に加え、安全面を第一に考えて実施されている当院での対応が紹介されました。圧巻は口演後半に提示されました手術ビデオであり、あっという間に設置される眼内レンズや最新のレーザー機器を使用して実施される角膜の切開などを、固唾

をのんで見守りました。

引き続き、第三口演「インプラント埋入手術・Minimal Intervention を考える」では、福田准教授から肉体的・精神的負担が増加することが予想される埋入手術時の生体の応答の解析データから、効果的な全身管理について解説があり、口腔インプラント科田口講師からは、治療の負担を軽減することを目的とした最新の技術が報告されました。

中休みを挟み、第四口演では矯正歯科宮崎講師から「成人矯正における MTM と咬合の再構成を考える」と題した講演がありました。歯科の広い領域の問題を解決するための手段の一つとして、MTM の頻度が高まっている事象を背景に、審美性を考慮した装置の利用や効率的な診療の進め方が提示されました。

引き続き、口腔外科笠原講師から「基礎疾患あり! 薬剤投与の注意点」と題された第五口演となりました。講師は、高齢化が進む本邦において、基礎疾患を有する患者の比率が急増していることを指摘したうえで、抗生剤、鎮痛剤を中心とした歯科治療に伴う薬剤投与に関する注意事項を具体的に示されました。

一般口演の最後には、同窓会東京支部連合会の保険担当理事である高橋敬人先生から「歯周治療における保険請求のかんどころ」と題した口演がありました。平成 20 年度に改正された歯周治療の枠組みの解説を中心に、同時に導入されたサポータブペリオドンタルセラピー（SPT）の効果的な実施法、算定における注意点などがわかりやすく解説されました。

各口演ごとに熱のこもった質疑が行われ、盛会のうちに閉会となりました。お忙しい中ご参加くださいました先生方に、あらためまして御礼申し上げますこととともに、一層の水道橋病院との連携をお願いする次第です。来年のこの報告会で取り上げる演題などもご希望をお知らせいただければ幸いです。



病院長から御礼のご挨拶

水道橋病院における禁煙支援活動

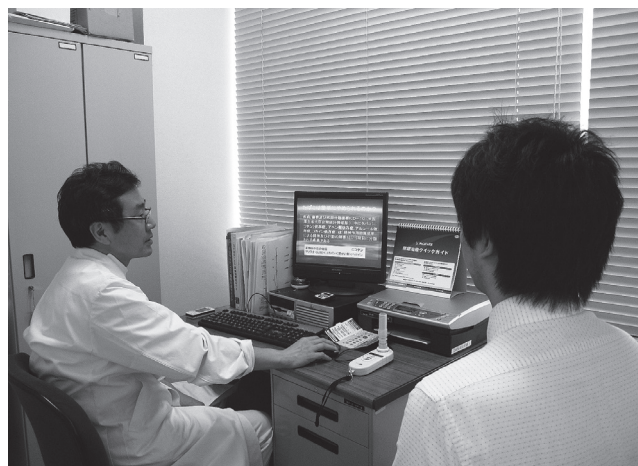
内科 仁科牧子

今日、喫煙習慣をニコチン依存症という疾病の一つとして捉え、2006 年 6 月にはニコチンパッチが、さらに 2008 年 4 月にはバレンクリンが薬価収載され、保険診療による禁煙指導体制が整ってきています。

水道橋病院では口腔外科、内科、看護部の連携のもと 2006 年 8 月に禁煙外来を立ち上げました。歯科領域においても喫煙と口腔内疾患の関連は明らかであり、最も早期に喫煙による影響を歯牙の着色や歯周病という眼に触れる変化として捉えることができます。そのため喫煙の問題点をいち早く喫煙者に啓蒙し、禁煙へ導くという禁煙治療における重要な役割を歯科医療が担っていることは言うまでもありません。しかし、残念ながら現時点においては歯科における禁煙治療は保険診療として認められておりません。そのため水道橋病院では両科が連携することによって、禁煙支援を保険診療で行える体制を作って診療にあたっています。

2006 年 8 月から 2009 年 3 月までに当院で禁煙支援を受けられた方は 25 名（男性 17 名、女性 6 名）と症例数は少ないのですが、短期禁煙率は 80%、長期禁煙率は 67% でほぼ平均的な禁煙成功率を収めています。2008 年から使用が可能になった経口禁煙補助薬であるバレンクリンは副作用の発現が少なく、当院の禁煙外来においても短期禁煙率および 6 ～ 9 ヶ月禁煙率ともに 100% と大変良好な結果が得られており、今後さらに禁煙に成功する例が増加していくものと思われます。

疾病予防の見地より禁煙治療は今後ますます重要になることは明かです。当院でも短期禁煙のみではなく、再喫煙防止のためより積極的に係わって、一人でも多くの方々の健康増進に役立って参りたいと思っています。よろしくお願い致します。



禁煙指導風景

【参考】保険適応となる対象患者の条件

以下の4つすべてを満たしていること

- ①ニコチン依存症スクリーニングテスト(TDS)5点以上
- ②一日の喫煙本数×喫煙年数が200以上
- ③直ちに禁煙することを希望している患者
- ④ご本人が禁煙治療を受けることを文書により同意している

水道橋病院 禁煙外来（内科）

毎週水曜日 午後2時から（要予約）

TEL：03（5275）1926（内科 DI）

東京歯科大学外科的矯正治療 勉強会を開催

矯正歯科 片田英憲

昨年7月、血脇ホールにおいて第1回東京歯科大学外科的矯正治療勉強会が開催され、その後11月に第2回、本年3月に第3回が開催されました。これは東京歯科大学の3病院（水道橋・市川・千葉）の口腔外科と矯正科（千葉と水道橋合同）の4科が持ち回りで開催および運営しています。その目的は外科的矯正治療に係る、診断、治療技術の向上、および歯科矯正医と口腔外科医とのよりよい連携治療のあり方を模索し外科的矯正治療の進歩と発展に貢献することです。

毎回、各病院の口腔外科3名と矯正科1名の講師による講演と質疑応答が行なわれ、第1回勉強会では外科的矯正治療全般と保険改正への対応、第2回は「ClassⅢ症例を斬る」をテーマに各病院口腔外科の取り組みと矯正における診断のポイント、そして第3回は「ClassⅡを考えるPart1」としてClassⅡ症例へのアプローチについて講演が行なわれました。いずれの会も100人前後の口腔外科医、矯正医、一般歯科医、スタッフなどが集まり、また大学間の壁も無く盛況でした。勉強会終了後の懇親会では、普段診療依頼を出すだけで会話の無かった開業医と口腔外科医、矯正歯科医とのコミュニケーションが図られ、とても有意義でした。

次回は7月23日（木）17：30から水道橋病院血脇ホールにおいて、矯正歯科（末石教授）の運営で開催する予定です。テーマは「ClassⅡを考えるPart2」で、前回網羅しきれなかったClassⅡ症例を、さらに深く切り込もうと企画しております。毎回終了後にアンケートを回収し、少しでも参加者の要望にこたえるべく内容を充実させております。一般歯科医の先生でも外科的矯正治療に興味をお持ちの方はぜひ一度ご参加下さい。案内を希望される先生は東京歯科大学水道橋病院矯正歯科片田までご連絡下さい。

矯正歯科 TEL：03（5275）1724

AHA（American Heart Association） 公認BLSヘルスケアプロバイダーコース開催

口腔外科 谷口 誠

平成21年1月24、25日の両日、東京歯科大学水道橋病院主催でAHA（アメリカ心臓協会）のBLSヘルスケアプロバイダーコースが行われました。

本コースは医療従事者、医師、歯科医師、看護師、救急救命士およびコメディカルが対象で、成人、小児と乳児における救命の連鎖を訓練するプログラムでAEDの使用もコースに含まれています。アメリカでは医療従事者が病院で働く場合、BLSヘルスケアプロバイダーであることを要求されます。日本では現在、専門医の資格基準となっていますが、それに限らず現在、多くの方が受講されています。

今回、水道橋病院でのコースは初めてでしたが、2日間合わせてのべ52名の受講生が参加され、朝9時から夕方5時までみっちり心肺蘇生を訓練し、正しい技術を身につけることができました。今後もこの活動を続けて行きたいと思いますので、ぜひ次回にご参加ください。

インプラント診療における病診連携

口腔インプラント科 関根秀志

日頃より、口腔インプラント科への診療のご依頼をいただき、心より感謝申し上げます。歯科臨床のなかにインプラント治療は広く浸透し、平成15年にスタートいたしました当科の診療は増え続けております。残念ながらその中には、インプラント治療にかかわるトラブルに関する事例が少なくございません。“安全と確実”を第一義と考えながら診療を進めておりますが、診療期間が長引いてしまうなど患者さん、ご紹介元の先生にはご迷惑をおかけすることがございました。

本年度より、当科ではより一層の診療体制の充実を図っております。まず、若手歯科医師があらたに2名、当科に加わり、それに伴い、診療エリアを拡大し、チェアー3台を追加いたしました。さらに治療経過を左右する術後管理体制を整える目的で、日本歯周病学会認定資格を有する歯科衛生士が1名加わりました。診療科の機能をより向上させ、治療期間の短縮を図っていく所存であります。

一方、“安全と確実”の実践といたしまして、CTデータを基にしたコンピューターシミュレーションとCAD/CAM応用の外科用ガイドを用いたインプラント埋入、さらに事前に準備した上部構造を手術当日に装着する“ワンデイ・トリートメント”にかかわる専門外来

水道橋界限スケッチ

水道橋畔を走る

去る4月12日“水道橋皇居一周ランニング大会”を首都圏同窓に呼びかけて催しました。同窓と家族中心に24名も集まり、病院から皇居を一周して約8キロを、晴天に恵まれ楽しく走りました。参加賞は金子学長のご厚意で、120周年記念マスコット「ビバノスケ」ボールペン。ラン後近くの居酒屋を借り切った懇親会は、4時間以上におよび大盛況でした。参加者は中高年がほとんどでしたが、また秋に開く予定ですので、若い同窓も進んでご参加を！

(文責 柿澤)

次回予定：11月15日(日)

問い合わせ先：

水道橋病院 TEL：03(5275) 1739(柿澤まで)

千代田支部 TEL：03(3288) 0269(今村まで)



スタート前、病院玄関120周年垂幕を背景に



皇居に向けて一ツ橋付近を走る

水道橋界限の写真募集

水道橋界限の思い出深い写真を募集します。御提供頂ける場合は、水道橋畔発編集委員までご連絡ください。

の立ち上げを予定しております。

そのほか様々な技術、材料を用い“最小の侵襲”を意識したインプラント治療の実践を心がけてまいります。今後とも当科との親密な連携をお願いいたします。お問い合わせなどは当科直通ダイヤルにてご一報ください。

東京歯科大学水道橋病院 直通電話番号(各科受付)一覧	
総合歯科	03-5275-1721 1722
口腔インプラント科	03-5275-1760
小児歯科	03-5275-1723
矯正歯科	03-5275-1724
口腔外科	03-5275-1725
歯科麻酔科	03-5275-1851
眼 科	03-5275-1856
内 科	03-5275-7926
放射線科	03-5275-1953
庶務課 FAX	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内	
初診受付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診療時間	平日 午前9時から午後4時30分 土曜 午前9時から午後12時
休診日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日(2月12日)、年末年始

編集後記

・世界的な金融危機に端を発し、景気の良い話に縁遠い日々が続いております。その一方で、水道橋界限では、慣れ親しんだグリーンホテルが高級ホテルに様変わりを果たし、近隣の大学校舎も新築が続いております。直近に目を奪われない、確固たる将来構想が求められております。

・そのような中で、東京歯科大学も水道橋への回帰の準備が進められております。過日、TDCビルの側壁に、120周年を告知する垂幕が掲示されました。血協記念ホールや会議室をご利用になられた際に、目にされた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。水道橋病院のスタッフにとりましても、現実味を帯びてきた感がございます。

・新型インフルエンザの国内での感染が急増し、目まぐるしい対応に追われております。病院として機能する上で、社会に対して、ひいてはお一人お一人の患者の皆様にご迷惑とならないよう、実のある安全管理、危機管理の念を日々強くしている次第です。(関根)

水道橋畔発編集委員

編集委員長 柿澤 卓

編集副委員長 関根秀志、高久勇一郎

編集委員 高野正行、古澤成博、福田謙一